

「グループ活動」編

さぬきの授業 基礎・基本

～ 子どもに学びのときめきを～

実践事例集Ⅲ



平成26年3月
香川県教育委員会

目次

I	はじめに	2
II	「グループ学習」をテーマにした実践事例 1	3
○	「グループ学習によって効果が上がる場面」とは？	4
【小体】	よい動きを共有する「グループ学習」	
【中保体】	動きの喜びを感じさせる「グループ学習」	
【小総】	自ら考え、動き出す「グループ学習」	
【中家】	新しい考えに気付かせる「グループ学習」	
○	「グループを編成し、技法を選択する」とは？	6
【小理】	子どもの主体性を促す「グループ学習」	
【小家】	効果的な場面選択による「グループ学習」	
【小社】	考えを深め、つなげる「グループ学習」	
【小生】	必然性のある「グループ学習」	
III	「グループ学習」をテーマにした実践事例 2	8
○	「グループ学習の効果を高める手立て」とは？	9
【中理】	科学的思考力・表現力を高める「グループ学習」	
【小音】	学び合いの力を引き出す「グループ学習」	
【小国】	学習場面に適切に位置付けた「グループ学習」	
【中数】	学び合いの効果を高める「グループ学習」	
【中技】	多面的な思考が深める「グループ学習」	
【中社】	多面的な思考や多様な解釈を促す「グループ学習」	
【中国】	ロールプレイを取り入れた「グループ学習」	
【小算】	学び合いの力を引き出す「グループ学習」	
【中美】	鑑賞の視点をもつための「グループ学習」	
【中英】	積極的な参加を促す「グループ学習」	
【中音】	主体的な鑑賞活動のための「グループ学習」	
IV	おわりに	14

I はじめに

本冊子は、「さぬきの授業 基礎・基本 ～子どもに学びのときめきを～」(平成 25 年 3 月 香川県教育委員会発行)に書かれている内容を、小・中学校の授業で具現化した実践事例集Ⅲ「グループ学習」編です。

平成 25 年度は、香川県小学校教育研究会、香川県中学校教育研究会から合わせて 255 事例を提供いただき、本冊子では、その中から 19 事例を紹介しています。

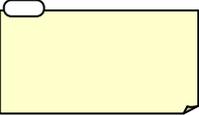
実践事例集Ⅲでは、「グループ学習」をテーマとして取り上げています。グループ学習は、教師の手が直接届かない時間・空間を意図的に設定することにより、子ども同士の学び合いの力を引き出すことをねらいます。

教育は、教師がいなくても自ら学んでいく子どもを育てる営みですから、まさに日頃の教師の働きかけの真価が問われる場とも言えます。それだけに、子どもが自立した学び合いを成立させることはなかなか難しい面もあります。しかし、経験していないことはできるようにはなりません。すぐにはうまくいかないことも、小中学校の 9 年間の見通しをもち、チャレンジしていくこと、経験を積み上げていくことが大切です。

提供いただいた事例を通して、「グループ学習」の基礎・基本として大切な留意事項は何かということが具体的に見えてきました。本冊子で紹介している事例や留意事項をご覧ください。その基となる考え方を「さぬきの授業 基礎・基本」に求めたり、「さぬきの授業 基礎・基本」から「これは具体的にはどういうことなのだろう」と問いをもって本冊子を開いたり、合わせて日々の授業改善に役立てていただけることを願っています。

なお、本冊子で紹介できなかった残りの事例については、県教育センターホームページ (URL <http://www.kec.kagawa-edu.jp/>) に掲載していますので、ぜひご覧ください。

【本冊子の見方】

- ・  . . . 「さぬきの授業 基礎・基本」からの抜粋
- ・ □～ . . . 実践を通して見えてきた留意事項
- ・ ■～ . . . 具体的な事例を紹介している項目
- ・  . . . 本時の目標
- ・  . . . 子どもの変容

Ⅱ 「グループ学習」をテーマにした実践事例 1

「さめきの授業 基礎・基本」には、「グループ学習」の基礎・基本として次のように述べられています。

グループ学習 1

- ☆ グループ学習のねらいを明らかにする
 - なぜ、グループで学習するのか、そのねらいを子どもたちと共有しておきましょう
 - ・ グループにさえすれば、子ども主体になるのではない
 - ・ 教師の手が直接届かない時間・空間を意図的に設けることで、子ども同士の学び合いの力を引き出すことができる
- ☆ グループ学習で効果が上がる学習場面を選択する
 - ・ 多面的な思考が可能であったり、多様な解釈が必要であったりする場面
 - ・ 対話によって、子どもが学習を深めたり、広げたりする必要がある場面
 - ・ 多くの発想を出させたり、発想の質を高めたりする必要がある場面
- ☆ グループを編成し、技法を選択する
 - グループの編成に定型的なものが存在するわけではありません。学習のねらい、学習場面、子どもの実態などに応じて、最適なグループ編成や技法の選択をしましょう

これを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

「グループ学習のねらい」について

- 交流により、個々の考えの客観性をより高めることをねらう
- 生活経験の差や価値観の相違を埋めることをねらう
- 視野を広げ、新たな気づきを生むことをねらう

「グループ学習の効果が上がる学習場面」について

- 課題解決のために、相互交流によって新しい視点に気付かせ、個人の考えを広げていく場面に設定する
 - どの領域においてもグループ学習は大切だが、章の導入や課題解決などに精選も大切
 - 表現や鑑賞活動において、感受したことの意見交換に効果的
 - 発想を広げる拡散思考の場だけでなく、たくさんの意見から結論を導く収束思考の場でのグループ学習を意図的に仕組む
- 一人では乗り越えられないが、グループでなら越えられる課題を準備する

「グループを編成し、技法を選択する」について

- 認め合う学級風土を基盤とし、発達段階やねらいに応じてコーディネートする
- 似た考えの子どもを同じグループにしたり、リーダーを配置したりする等、編成を工夫する
 - 個性が発揮できるグループ編成する
 - 活動しやすい少人数（1グループ4人まで）で編成し、全員参加の授業に近づける
- KJ法やジグソー学習等の技法を選択し、グループでの考えを整理する
 - ブレーンストーミングで感じ方を交流するバズ学習で作品を鑑賞する

ここでは、■の項目について、事例を紹介します。

さぬきの授業 基礎・基本 I-8

「グループ学習によって効果が上がる場面」とは？

グループ学習によって効果が上がる場面を選択した事例を紹介します。

小学校第1学年 体育 単元「ドリームランドをたんけんしようーマット遊びー」

本時の目標：場の状況を捉え、後ろ転がりの動きを工夫することができる。

本時は、「後ろにくるりんランド」をクリアするためにマットの大きさ、広さの違う場を設定し、場の状況を捉えながら後ろに転がる動きの工夫を行った。しかし、後ろ転がりは、日常的にする動きではないため、どのように体を動かせばよいのか分からない子どもがいた。

そこで、**グループの中で上手く後ろに転がった友達の動きを見付けて、そこからどのように体を使えばよいのか見付け合うグループ学習を行った。**

すると、上手く転がった子どもの体の部位の動きに目を付けた子どもから、動きのコツにつながる話し合い活動が自然に生まれてきた。

「おしりが上にきたら、転がれるよ。」

「手にマットが着いたときに、ぐっと押しと転がるよ。」

と伝え合い、補助をすることで、後ろ転がりの学習が深まってきた。グループで、うまく転がれない友達を見付けた子どもが、おしりを押ししたり、マットの横に立って、「ぐっと押し」という合い言葉を伝えたりしながら後ろ転がりを行うことができた。



【友達を補助する子ども】



【動きのコツを伝え合う】

中学校第1学年 保健体育 単元「体づくり運動」

本時の目標：一人一人の体や心の状態の違いや運動によって体や心に起こった変化に気付くことができる。力加減や仲間と息を合わせることを意識しながら、体を巧みに動かすことができる。

授業の導入において、リラックスした雰囲気の中で、お互いの体と心に気付けるようなペアでのストレッチを取り入れ、「自分の体が動く喜び」、「自分の体が動かされる喜び」、「動きが広がる感覚」を味わわせた。お互いの体の状態について積極的に言葉を交わさせ、体に起こって

いる変化を共感させた。また、フラフープ、風船、新聞紙、割り箸などを使ったゲーム的な要素を取り入れた活動を設定し、グループのみんなで協力することによって解決できる課題を与えた。課題は、容易なものから難しいものへと段階的に設定した。

動きを工夫しているグループや仲間を大切にしているグループが見られた。積極的に称賛することを通して、運動が苦手な生徒も安心して課題に挑戦できる雰囲気ができた。



【友達や自分の身体の変化への気づきを共有する】

小学校第6学年 総合的な学習の時間 単元「甕屋嶋城 過去から現在そして未来へ」

本時の目標：グループで身体表現や話し合いによる即興劇を創る活動を通して、人人に感動を与えるような「屋嶋城の演劇」を創り上げるための改善点を見出すことができる。



【笑顔で動き出した子どもたち】

共通の目的がもてる、役割分担ができる、個性・感性が生かし合える、協力する必然性がある、学習の見通しがもてる、の5つの要件を満たすグループ学習を設定した。

即興劇づくりにおいて、グループ学習の時間を保障し、自由な雰囲気の中で目的を共有する仲間とともに身体表現・話し合い活動を繰り返し行った。

このことにより、自分たちの力で自分たちのグループの新たな、しかも具体的な課題が見出せ、演劇づくりへの一歩を踏み出すことができた。自分たちの力だけで「できた」部分と「できない」部分とをメモ（視覚化を図る）させた。グループ学習での成果と課題を子ども自身もつことで学ぶ達成感を味わい、さらに今後の学びの必要感（～のために～したい。）をもたせることができた。

中学校第3学年 家庭 単元「幼児のおかれている状況を知ろう」

本時の目標：幼児がおかれている状況を知り、幼児のために自分たちができることを考えることができる。

意見	今では核家族が増え、田や畑のない家庭が多く、田植えの手伝いでどろんこになることはあまりないと思います。地域の人たちの協力で、このような体験ができるのは素晴らしいことだと思います。
状況	小学生が詩をかけた。 カレーをみんなで食べる。 ワクチンでたくさんの子どもの子どもを助けることができる。
今後の関わりや取組	ユニセフなどに協力する。 ふれあいの場を多くする。

【グループ活動時に使用したワークシート】

生徒は、自分たちの命はかけがえないものであるということや幼児の生活の特徴や遊びの大切さについて既に学習している。

本時は、これらの既習事項をもとに、グループで新聞の中から幼児に関する記事を見付けさせ、生活の中での身近な問題として考えさせた。

グループ学習を通して、生徒は「同じ記事でも全く違う解釈があり、多くの意見を聞くことができた」「幼児について知る良い機会になった」などの感想をもった。また、4、5人の小グループで活動することは、全員が授業に参加し、活躍する場を保証するという意味でも効果的だった。

小学校体育の事例では、「どのように体を使えば、後ろ転がりが上手くできるか」という課題を解決するために、動きのコツを伝え合う場面でグループ学習を設定しています【小体】。中学校保健体育の事例では、あえてグループで協力しなければ解決できない課題を与え、グループで動きのコツを言葉にして伝え合うグループ活動を設定しています【中保体】。小学校総合的な学習の時間の事例では、即興劇づくりという課題解決に向かって友だちと意見を交換しながら協働して取り組むグループ学習を設定しています【小総合】。中学校家庭科の事例では、幼児のおかれている状況をつかむために、新聞記事の解釈を交流するグループ学習が設定されています【中家】。

共通することは、いずれも課題を解決するという明確なねらいをもち、相互交流によって、個人の視野を広げている場面にグループ学習を設定しているということです。このことから、グループ学習によって効果が上がる場面とは、課題解決に向けて、多面的な思考が可能であったり、多様な解釈が必要であったりする場合と言えます。

さぬきの授業 基礎・基本 I-8

「グループを編成し、技法を選択する」とは？

グループ学習は、ねらう効果や行う活動の目的によって、編成の仕方を工夫します。同質か異質か、分散型か集中型か、分担型か協働型か、より効果が上がるものを意図をもって編成します。ここでは、意図をもってグループを編成したり、技法を選択したりしている事例を紹介します。

小学校第6学年 理科 単元「ものの燃え方と空気」

本時の目標：線香の煙の動きやろうそくの炎の燃焼時間などから、物が燃焼するための条件について推論しながら調べ、物が燃焼するためには絶えず空気が循環する必要があることを理解することができる。



【互恵的なグループ学習】

本時では、他者との関わりによって学びの質を高める「グループ学習」に重点を置いて指導した。

まず、予想の時間を十分に確保し、個々の考えやその根拠が明確になるようにしておく。そこで出てきた考えのパターンを分析し、**一見予想は同じでも、その根拠となる考え方が少しずつ異なる子ども同士をグルーピングしておく。**こうした

編成を行うことによって、予想と結果にずれが生じ、自分の考えを見直したり修正したりする必要が生じた場合に、異なった見方や考え方を取り入れながら、自分の考えを修正していくことができる

☞このようなグループ学習を何度か繰り返していくうちに、子どもは教師の意図を越え、自然発生的なグループ学習の姿が見られるようになった。すなわち、教師の意図的な編成によるグループ学習は、子どもの主体性を育むのに有効だったと言える。

小学校第5学年 家庭 単元「おいしいね 毎日の食事」

本時の目標：課題別のグループに分かれて試し調理をし、他のグループと交流することでみそ汁作りのコツをまとめることができる。



【グループで見つけたコツを説明】

みそ汁作りのコツを見付けるために、煮干しを入れるタイミング、実の切り方等の課題別グループを編成して、試し調理をした。**同じ課題をもつ子どもたちでグループ編成した方が効率的だと考えた。**また、試食後の結果や感想をまとめる際にも、個々の好みに左右されず、客観的に判断できるという点でもグループ活動が有効だった。

☞ポスターセッションでは、各グループで見つけたコツについて表を示しながら説明したり、質問に答えたりした。自信をもって説明する姿が見られた。交流を通して、自分たちとは違うコツを知ったり、全体交流の中でみそ汁作りのコツをまとめたりすることができた。目的をもたせたグループ学習や交流は、思考を深めたり広げたりする際にも有効であった。

小学校第3学年 社会 単元「のこしたいもの つたえたいもの」

本時の目標：地域に古い物が残り続けている意味を、インタビューした内容や資料をもとにして考え、文化財や行事は地域の人たちの願いや思いによって守られてきた大切なものであることを理解することができる。



【考えが似ている付箋紙を重ねる】

まず、これまでの資料やインタビューメモを手がかりに見つけたキーワードを付箋紙に書き込んだ。次に、その付箋紙を持ち寄り、グループ内で紹介し合い、似ている付箋紙を重ねていった。その後、「受け継ぐ」、「協力」等のキーワードを使って文章を作っていた。友達の意見を聞き、地域の古いものを守っている人々の思いや願いについて考え直したりした。

このようなグループ学習を通して、単元のはじめには古い建物を守ることにどんな意味や価値があるのか、疑問をもっていた子どもたちも、地域の貴重な歴史を伝えていることを具体的に調べることができ、自分たちで受け継いでいきたいと、地域の一員としての参加意欲をもつことにつながった。

小学校第1学年 生活 単元「みんなおおきくなったよ」

本時の目標：自他の成長やよさを付箋紙に書き出し、仲間分けをすることにより、お互いのよさに気付くことができる。



【いいところを発表し合う】

友達のいいところを書いた付箋紙をペアで互いに交流し合うことで、他から認められる喜びと自信をもち、さらなる意欲化につながっていった。

まず、入学前と今の自分を比べ、できるようになったことやがんばったことを、一人一人が付箋紙に書いていった。次に、ペアで観点別（学習・生活・家庭）に仲間分けをする操作活動を行った。その後、友達のいいところを見つけて書き、その付箋紙を交換しあった。

例えば、「算数の時間、いっぱい手を挙げていたね。」「先生の話をよく聞いているね。」「前跳びが400回も跳べてすごいね。」などだれもが人から認められたいと思っていることを身近な友達に認められた子どもたちは、喜びと自信をもった。そして、できるようになった理由を考えさせることで、「お母さんが教えてくれたから。」「友達と一緒にがんばったから。」など、周りの人の支えに気付かせていった。

小学校理科の事例では、自分とは異なる視点から自分の考えを修正することができるという効果をねらい、予想は同じだが根拠が異なる子ども同士を同じグループになるよう意図的なグループ編成を行っています【小理】。小学校家庭の事例では、同じ課題をもつ者同士でグループを編成しています【小家】。小学校社会や小学校生活の事例では、自分の考えを付箋紙に書いて持ち寄り、グループで観点別に仲間分けするKJ法の技法を選択しています【小社・小生】。

これらの事例から、グループを編成し、技法を選択する際には、ねらう効果や活動の目的に応じて、意図的な編成を試みたり必然性のある技法を選択したりすることがグループ学習の効果を高めると言えます。

Ⅲ 「グループ学習」をテーマにした実践事例2

また、「さめきの授業 基礎・基本」には、「グループ学習」の基礎・基本として次のようにも述べられています。

グループ学習 2

- ☆ グループ学習の効果を高める手だてを用意する
 - 目的、活動の流れ、話し合っている話題、行っている作業などを、黒板やメモに書くことで、今やっていること、これからすることを、目に見える形で示します
 - グループ学習の前後には、一人で考える時間や全体で交流する時間を設定します
 - ① 個人学習
 - ② グループ学習
 - ③ 全体交流
 - ④ 個人での振り返り の流れ
 - 役割の決め方、発言の順番、話し方・聞き方などを工夫します
 - ・ 司会者（進行）、記録者などを交代制にして、すべての子どもに機会を与える
 - ・ 初めのうちは、発言の順番を決めておく
 - ・ 初めのうちは、自分の考えの話し方と友達の考えの聞き方を、定型化する
 - ・ 困ったときは、教師に相談するように、前もって伝えておく

これを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

「グループ学習の効果を高める手だて」について

- 事前に、話し合う視点や論点を焦点化する
- 役割分担することによって、学び合いが活性化する
- ロールプレイやジグソー学習等の手法を用いる
- あえて友達ノートの説明させたり、アイマスクを付けた友だちに対して説明させたりする
- 自分の考えを表出したノートを見せ合いながら話し合うことが効果的である
- 否定的な発言は、自由な意見交流を阻み、熟慮せず、多数意見に流れる傾向を生むため、意見交流を阻む否定的な発言に対しては、教師が積極的に介入し、指導する

「話し合いの手順を目に見える形で示す」について

- 発表の苦手な子どもには、ヒントカードとして「話し合いガイド」を配布する
- 少人数なら意思表示できる子どもが発言できるよう配慮する
- 進め方の指導だけでなく、授業規律の徹底も行う

「グループ学習の前後の言語活動」について

- 事前に、一人一人に意見をもたせる支援を行う
- グループ学習の前のノート指導を大切にする
- 自分の考えを整理した手持ち資料を持ってグループ学習に臨ませる
- 全体交流と個やグループの考えを行き来させる

「役割の決め方」について

- 発言機会を均等にする

ここでは、■の項目について、事例を紹介します。

さぬきの授業 基礎・基本 I-8

「グループ学習の効果を高める手だて」とは？

グループ学習の効果を高める手だてには、話し合いの進め方を明示したり、グループ学習の前後の言語活動を充実させたり、グループ内、グループ間の役割分担を工夫したりすることなどがあります。

ここでは、様々なグループ学習の効果を高める手だてを紹介します。

中学校第2学年 理科 単元「身のまわりの物質とその性質」

本時の目標：化学変化に関する発展的な実験を行い、その現象を班内の生徒に科学的に説明することができる。

本時は、日常生活と関連がある化学変化をグループごとに選択し、実験で分かったことを班員に説明して学びを共有することをねらう発展的な学習である。実験する場面、分かったことをまとめる場面、班員に説明する場面、説明を聞いて自分でまとめる場面にグループ学習を設定し、生徒間の学び合いの力の育成を図った。

学習のリーダーとなる生徒を含むグループを意図的に編成し、話し合いが苦手な生徒への関わりや思考の深まりを期待した。

発表の苦手な生徒には、説明の手順を記したガイドを配布し、教師が助言を与えた。生徒は積極的に疑問を述べて現象の理解に努めていた。また、互いに発表原稿を点検し、説明の練習ではよいところを称賛したり、不十分なところに助言を与えたりしていた。



【生徒が説明するようす】

➡ グループの人数は4人以内の少人数にしたことが、実験の役割分担や自由に話し合える雰囲気づくり、意見発表に要する時間削減等に効果的で、全員参加の授業となった。

小学校第2学年 音楽 単元「いい音みつけて」

本時の目標：楽器を打つところや打ち方、打つ物を工夫して、試しながら歌詞や様子に合う音を探し、違う音色を組み合わせ、表現を工夫することができる。

題材「森のたんけんたい」において、自分たちでつくった歌詞に合う音色や表現をグループで話し合いながら工夫することで、模倣、反復、問いと答えの表現のおもしろさを感じとらせた。

まず音色を追究するためには、①打つところ、②打ち方、③打つ物を変えるとよいことに気付かせ、一人一人が見つけた音をワークシートに書き、グループ学習の際にも振り返ることができるようにした。次に、見つけた音をどのように組み合わせ、どこで鳴らすのかを友達と話し合わせ、ワークシートに記録させた。



【ワークシートをもとにグループで音楽づくり】

➡ 記入したワークシートを見ながら、何度も表現を繰り返し、友達と聴き合う子どもの姿が見られた。音楽に苦手意識をもつ子どもも、友達と一緒に音楽づくりをしていく過程で、音色のよさやおもしろさ、表現することの楽しさを共有することができた。

小学校第6学年 国語 単元「資料を活用して書こう」

本時の目標：文章に書いた自分の考えが相手に明確に伝わるかどうかを確かめるとともに、表現の仕方や資料活用の際の疑問点について友達から助言をもらうことで、相手意識を高めた文章表現につなげることができる。

表現の仕方や資料の活用について学び合う際、考えを広げたり深めたりすることをねらい、グループ学習を設定した。

右に示すような学習場面において、話し合いの視点を絞ったことで、意見交換が活発になった。グループ学習を適切に位置付けることで、子どもたちの学びは深まったと感じた。

→ 成果としては、次のことが挙げられる。

- ① 友達と読み合う前に、自分の書いた文章を見直すことができたこと
- ② 自分の工夫や困ったことをラベルに書くことで、必要感のあるグループ学習へとつながったこと
- ③ 視点を絞った交流となったこと

- 1 個人学習
資料を選んで呼びかけの文章を書く。
- 2 グループ学習
(1) 書いた文章を読み返し、ラベル(大きめの付箋紙)に、「文章を書く上で工夫した点」「文章を書きながら困った点」を書き、友達に渡す。
(2) 渡された友達はラベルに書いた言葉を読み、ラベルの内容に視点を絞って感想や助言を書く。
(3) 友達からの感想や助言について質問や意見交換をする。
- 3 全体交流
友達から受けた感想や助言を出し合い、文章のよりよい構成や表現、資料の効果的な活用に関する学びを深める。
- 4 個人での振り返り
(1) グループの友達数名からの感想や助言を参考にして、書いた文章を読み直し、必要に応じて修正する。
(2) ラベルトークから学んだことを含めた本時の振り返りを書く。

【グループ学習前後の設定】

中学校第2学年 数学 単元「式の計算」

本時の目標：カレンダーの数の並びから規則性を見つけ出し、文字式を利用して説明することができる。

カレンダーの数の並びには多くの規則性が考えられ、文字式を利用してそれがいつでも正しいことを説明する際、次のことに留意しグループ学習を行うことで、学び合いの効果を高めることができると考えた。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

【規則性の例】

- グループ学習を行う前に、自分の考えをもって学習に参加できるよう規則性を1つ以上見付け、説明できるように結果や解決の方法の見通しをもたせること。そのために、遅れて進む生徒を中心に、個別指導を十分に行うこと。
- 自分が見付けた考えを伝えるだけでなく、友達の考えを読み取ったり、しっかりと聞いたりすること。
- 規則性を見付けても説明の仕方が分からない生徒がいるときは、グループで説明を考え、再度、自力でやってみる活動を取り入れること。
- 自分の考えを友達の考えと比べたり、振り返ったりする時間を確保すること。

→ このようなグループ学習を通して、自分の考えを深めたり、友達の考えを基に自分の考えを再構築したりしていった。

中学校第2学年 技術 単元「電気エネルギーの変換と利用方法」

本時の目標：電球の特性を理解し、目的に応じて使い分けることができる。

まず、共通課題として個人でモデルハウスの照明プランを考えさせた。その後、グループ内でそれぞれのプランを発表させ、話し合いを通してグループのプランとして一つにまとめさせた。

➡ こうすることで、自分では気が付かなかったアイデアにふれ、より広い視点から技術を評価・活用することの大切さに気付かせることができた。

また、授業の終末で、実際の自分の生活を振り返る場面を設定することで、学習した内容を生活に生かしていこうという態度につなげることができた。

照明器具の授業を終えて

CMなどでLED電球が省エネで良さそうと思っていたが、白熱電球と同じ明るさにしようとすると値段がまたまた高いことが分かったので、使う時間が少ないところはもう少し白熱電球でもいいかなと思った。

【授業後の生徒の感想】

これらの事例では、子どもがグループ学習に臨む際に、個々の考えをもったり、表現したりできるように手だてをうっています。

中学校理科の事例では、発表の苦手な子どもへの手だてとして、説明の手順を示したガイドをヒントカードとして渡しています【中理】。小学校音楽では、音色を追究する視点に気付かせ、見つけた音をワークシートに書かせています【小音】。小学校国語では、事前に表現の工夫や困ったことをラベルに書かせてからグループ学習に臨ませています【小国】。中学校数学では、個別指導を十分に行い一人一人に規則性を発見させ、それをグループ学習に持ち寄るように活動を仕組んでいます【中数】。中学校技術では、個人プランを作成した上で、グループ学習を設定しています【中技】。

これらの事例から、グループ学習の前に、一人で考える時間を設定し、各々が自分の考えをもった状態でグループ学習を行うことがグループ学習の効果を高めると言えます。

中学校第3学年 社会 単元「よりよい社会をめざして」

本時の目標：現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、『マンションの騒音問題を解決しよう』をテーマにしたロールプレイを通して、「対立と合意」、「効率と公正」の意味について理解できる。

各グループで、マンションのそれぞれの住民の立場に立ったロールプレイを行うことで、それぞれの住民の主張の背景を、多面的・多角的に考えさせたいと考えた。

はじめに、それぞれの住民の事情と主張を整理させるために、住民間の「相関図」をグループで作成した。

次に、その相関図に基づいて、住民間の「対立」関係を明らかにした上で、「合意」に向けた解決案を考えた。その際、グループごとに「住民会議を行う」ということでロールプレイを実施した。

さらに、解決案を「効率」と「公正」の観点から検討させ、修正する必要がある場合は修正させ、よりよい解決策を考えさせた。最後に、活動を振り返らせ、住民の誰もが納得する話し合いができたかを評価した。

中学校第2学年 国語 単元「単元文法の窓1 敬語」

本時の目標：敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）の働きについて理解し、それぞれ使い分けをすることができる。

まずは、尊敬語・謙譲語・丁寧語のそれぞれの動作の主体と対象をペープサートを用いて整理し、とらえさせた。

次に、4人グループに分かれて敬語を使った会話例を読み、敬語に慣れさせた。そして、グループ内で①話し手、②聞き手、③④記録係の役割を分担し、テーマ毎にローテーションしてロールプレイを行った。「先生に昨日、どんなテレビ番組を見たかを尋ねる」などの状況を設定し、その場や相手にふさわしい敬語を考えさせた。

話し手と聞き手がどのような受け答えをしたか記録係が記録し、全体で交流して間違っているものに気付かせた。

➡ ロールプレイを行うことで、敬語の働きを実際の生活に照らし合わせてより深く理解させることができた。また、分からないことを班で教え合うこともでき、全員が授業に参加しようとする態度を養うことにも役立った。



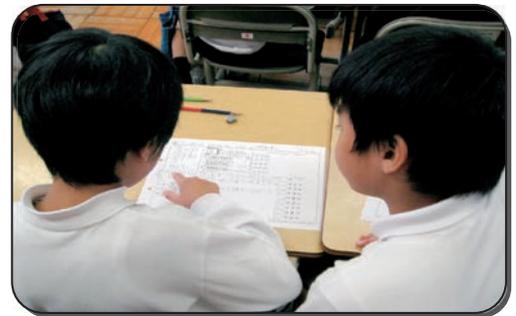
【ペープサートを用いた板書】

小学校第2学年 算数 単元「かくれた数はいくつ」

本時の目標：加減2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図を利用して解決することができる。

話し手(A)は、自分のノートではなく、ペアの友達(B)のノートを見て説明したり、質問したり、補足したりするようにした。

➡ このことにより、説明する(A)の話を聞き手(B)は主体的に聞くようになった。そして、相手に自分の考えをより分かりやすく伝えるためのノート表現はどうか、筋道立てて説明するには式と図と言葉をどうつなぐとよいかを、見直す場となった。



【聞き手Bのノートを話し手Aが説明】

A2：問題文の順番どおりに式にしたんだね。

A1：もらった数が分からないから、メモに？としたんだね。

B2：増えたから、たし算だよ。

B1：メモの意味は合っているよ。

問 はじめ8こみかんがありました。
何かもらったので、25こになりました。
何かもらったでしょう。

しき $8 + ? = 25$
 $25 - 8 = 17$ ことえ 17こ

ず

①

②

③

メモ

25
8 ← ?

B3：25の中には、はじめの8と増えた？が含まれるから、25から8をのけると？が分かるよ。

中学校第2学年 美術 単元「作品を見て感じたことを言葉で伝えよう」

本時の目標：作品の色や形に着目しながら特徴をとらえ、作品を見て感じた印象を言葉にすることができる。友達の意見をよく聞いてから作品を見ることで、新しい視点から感じることができる。



【グループ学習の様子】

グループで絵を鑑賞する際、グループの一人だけにアイマスクを着けさせた。そして、アイマスクの友達に対して、色や形、構成など、どんな感じがするのか、どんな題名がふさわしいのかを説明するようにした。

次に、教師はアイマスクの生徒に、班員の説明からどのようなイメージを持ったかなどを質問した。そして、友達からの説明を参考に、アイマスクの生徒に、絵の題名を決めさせた。

その後、題名を書いた札を伏せておき、今度は、全員でその絵を鑑賞した。作品の色や形に注目するよう助言し、どのように感じるかを話し合った後、題名を発表するようにした。

〈生徒の振り返り〉

1つ目の絵は、「暗い」や「色」などでうまく説明できたと思います。2つ目の絵は、自分が目かくしをして、友達からの説明を聞いていると、だんだんイメージがわいてきました。題名を決めるのは難しかったけれど、自分なりにできました。

中学校第2学年 英語 単元「新文型の確認に使用できる楽しいゲーム」

本時の目標：自分が担当する単語を正確に班員に伝え、単語の語順を適切に並べかえることができる。



【グループでゲームに取り組む】

【準備物】各グループに解答記入用紙1枚。

【学習形態】クラスを8グループに分ける。1グループは5名程度とし、それぞれの生徒にナンバーを付ける。

【流れ】

- ① 教師が、“Go to sleep.”と言うと全員机に顔を伏せる。“No. 1. Wake up.”で各グループのNo. 1の生徒のみ顔を上げる。教師は、黒板に素早く単語を1語書き見せる。No. 1の生徒はその単語を覚える。声を出してはいけない。覚えたら再び顔を伏せる。残りの生徒にも同様に、1単語を覚えさせる。
- ② “OK. Make a sentence.”の合図で5単語を組み合わせ、教師がどのような英文を出題したかを当てる。もし、[going, eat, udon, I'm, to]の5単語が出揃ったら、“I'm going to eat udon.”をいち早く言い当てたチームの勝利である。

2順目には、より長い文を出題することも可能である。また、単語を文字に置き換えることで1年生にも応用できる。例えば、[p, o, a, i, n]であれば“piano”である。

このゲームでは、単語を並べかえ英文にする場面で、英語を得意とする生徒がリーダーシップをとり、英語を苦手とする生徒も1単語覚えるだけなので活動に参加できた。また、活動を通して生徒同士で文構造について教える者、教えてもらう者がおり、学び合いが成立した。

本時の目標：グループで交流しながら、主体的に構成要素の特徴を感じ取ることができる。

ねらいに迫るために聴く観点を絞った。4人グループで4つの観点。観点には「強弱」「伴奏のリズム」「旋律」「楽器」と感じ取ったことを容易に表現できるものと細かい感受が必要なものとを用意した。

一人一役で活動することで聴く観点が限定され、主体的に聞き取ろうとするきっかけとなった。また、発表のために、お互いの意見を交換し、補ったり共感したりして話し合う必然性にもつながった。

このような一人一役のグループ学習は、どの生徒も主体性をもって参加することができ、自分の意見に自信がなかったり、感じ取ったことをどう表現したらよいか分からなかったりする生徒たちにとって効果的であった。目的や活動の仕方を明確にしたことで、充実した話し合いとなり、豊かな学びにつながることができた。

これらの事例では、グループのメンバーに役割を分担することで、グループ学習を活性化させています。

中学校社会と国語では、ロールプレイの手法を用いて、役割分担をしています【中社・中国】。小学校算数では、自分のノートではなく、あえてペアになった友達のノートを説明する役割を与えています【小算】。中学校美術では、グループ内のアイマスクの友達に説明する役割を与えています【中美】。中学校英語では、一人一人に異なる単語を覚えさせることで、5人が協力しないと解決しない課題を与えています【中英】。中学校音楽では、一人一役の聴く観点を与えています【中音】。

このように、役割分担を工夫するとともに、授業への参加を高めるしかけを用意することがグループ学習の効果を高めると言えます。

Ⅲ おわりに

ただ「考えなさい」と言っても考えられないのと同じように、ただ「話し合いなさい」と指示してもグループ学習は成立しません。教師の手から離れるグループ学習ゆえに、その活動の目的や必然性、手順や役割等を示す環境設定が重要になってきます。

また実践を通して、1グループを3、4人程度の話しやすい少人数で設定することや意図的な編成を行うこと、事前に個々の考えをもたせること、役割分担を工夫すること、目的や手順を明らかにすることなど、たくさんの方が分かってきました。

子どもの成長にとって、授業中、一言も声を発することなく一日が終わっていくことは不幸なことだと思います。全体の場で公の言葉を使って堂々と発言できる力も育てていきたいところですが、一言も言葉を発しない毎日が続かないよう、グループ学習を積極的に取り入れていきたいものです。

型にこだわらず、短い時間でも「少し、近くの人と相談してごらん」という時間を確保するだけでも、子どもの表情は変わってくるのではないのでしょうか。その際、正対しなくてもすむ話しやすい身体の向きや同じ物を見ながら話せる互いの距離などにも配慮したいものです。

「ボレロ」の魅力に迫ろう 3年()組()番 氏名()

曲名 **ボレロ** 作曲者 **モリス・ラヴェル** 出典国 **フランス**

この曲は(パレエ)音楽として作曲された。もともとは(スペイン)で発祥した(舞)。

観点	感じたこと・気づいたこと	【音楽の構成要素】
旋律	フルートがリードし、木管楽器がサポートしている。リズムは遅く、重厚な感じがする。メロディは単純で、繰り返される。管楽器の音色が美しい。	反復
伴奏のリズム	リズムは遅く、重厚な感じがする。メロディは単純で、繰り返される。	変化
強弱	強弱のコントラストが大きい。静かから徐々に強くなる。最後は非常に強い。	特徴
楽器	フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、チェロ、コントラバス、ピアノ、打楽器、管楽器の音色が美しい。	

あなたが感じた「ボレロ」の魅力とは？

私は、この曲のメロディが非常に美しいと感じました。また、リズムが非常に遅く、重厚な感じがする。そして、強弱のコントラストが非常に大きいと感じました。最後に、管楽器の音色が非常に美しいと感じました。

【ワークシート例】

さぬきっ子 学びの三訓

一 準備して

二 姿勢整え

三 しっかり聞こう



香川県教育委員会

さぬきの教員 かかわりの三訓

一 共感的に受け止め

二 チームの力で

三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会